一般社団法人
やさしい日本語
普及連絡会

やさしい日本語ツーリズム研究会

ウェビナー　やさしい日本語と防災・減災
～自治体における実践事例とツール活用～

阪神淡路大地震から30年
「減災」x「やさしい日本語」に立ち返ってみる

2025年6月20日

吉開　章

一般社団法人やさしい日本語普及連絡会　代表理事
やさしい日本語ツーリズム研究会　代表

Copyright© Akira Yoshikai

2023年4月1日、一般社団法人やさしい日本語普及連絡会設立

一般社団法人
やさしい日本語
普及連絡会

やさしい日本語普及に
取り組む団体を組織化

個人会員は現在『入門・やさしい日本語』認定講師に限定

法人会員一覧

ミッションステートメント

①社会的提言

やさしい日本語の啓発に民間の立場から携わるものの意見をまとめ、行政や関係者などに広く提言していきます。

②普及者の交流・研鑽・育成

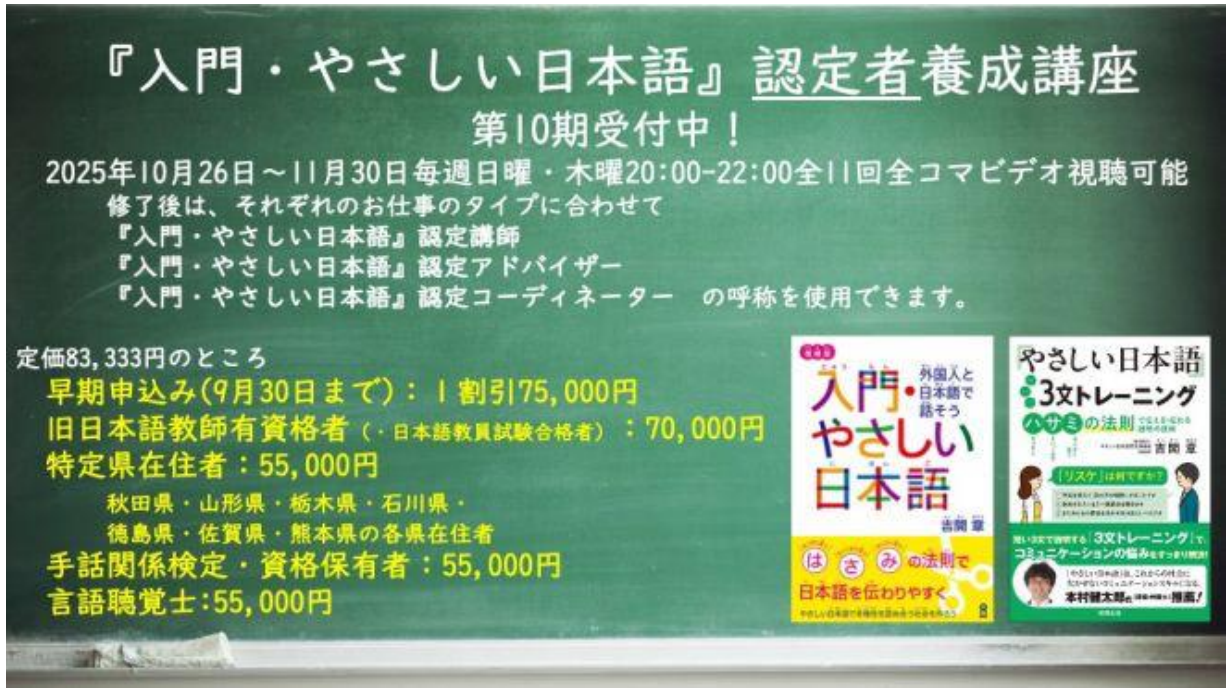
会員間の交流を深め、セミナーや勉強会などを開催することで、ノウハウや課題意識を共有し、会員の活動に生かします。

③やさ日関連情報発信

やさしい日本語に関するニュースや情報を集約し発信していきます。非会員の方も参加できるセミナー・講演会なども開催します。

Copyright© Akira Yoshikai

『入門・やさしい日本語』認定者　今年末に全国500人突破予定



にゅうもん
入門・
やさしい日本語
にほんご
にんていこうし
認定講師

Copyright©　Akira Yoshikai

やさしい日本語のキーワード　「ハサミの法則」

- はっきり言う
- さいごまで言う
- みじかく言う

Copyright© Akira Yoshikai

佐藤教授による「やさしさ」の基準：「エビデンス」

「やさしい日本語」が外国人被災者の命を救います。

防災・減災のために必要な情報を事前に洗い出し、

語彙の言い換えや文章表現を検討した上で、

在留外国人の８０％が理解可能というエビデンスが

得られたものだけを「やさしい日本語」とする

行政情報やコミュニケーションに比べて洗い出ししやすく、全国的にも共通に使いやすい

残り２０％には同じ言語の外国人コミュニティ間で情報を伝えることも含めて、地域での１００％の周知を目論む

日本語教育の語彙・文法レベルも参考にしつつも、
エビデンスがないものは「やさしい日本語」ではないとした

「命を救う」というミッションのための、精緻な研究

膨大な行政情報やコミュニケーションは、エビデンスを得にくいので、研究の対象外とした

Copyright© Akira Yoshikai

減災のための「やさしい日本語」からの広がり

・減災のための「やさしい日本語」：　弘前大学佐藤和之教授（社会言語学）

1995年の阪神淡路大震災での外国人被災率の高さの反省から、研究開始

・平時のための＜やさしい日本語＞：　一橋大学庵功雄教授（日本語教育）

日系ブラジル人などの増加など、多文化共生の観点から2006年ごろ研究開始

・観光のための、やさしい日本語　：　吉開章（やさしい日本語ツーリズム研究会）

2016年に福岡県柳川市で開始、日本語学習者が多い東アジアからのインバウンド客を対象

・医療のための、やさしい日本語　：　武田裕子教授（順天堂大学）

2021年、東京都と連携して医療機関における導入を目指す

・在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン：入管庁・文化庁

2020年書き言葉 2021年話し言葉、地方自治体および地域日本語教室などを対象に展開

Copyright© Akira Yoshikai

やさしい日本語推進上の課題

・拡大一方の対象領域
　　・書き換える必要のある情報の洪水に、現場の研修程度では追いつかない

AIを活用した自動変換の推進

・移民反対派が反応
　　・「東京都多文化共生推進指針改定版」を報じたネットメディアからの炎上

理想論・万能論ではなく、ニーズに立ち返る

・やさしい日本語を使った災害報道に対する大きな炎上は見られなくなった
　　・2016年の熊本地震以降、数々の災害報道を経て、常識化してきた

今こそ減災のためのやさしい日本語を参考に

Copyright©　Akira Yoshikai

やさしい日本語は、［ AED ］のようなもの

［ AED ］もやさしい日本語も、日常的に使うものではないが、
いざ必要な状況になったときに、
日本に住む誰もが確実にその存在を思い出し、
現場で自立的に実践することが求められる。

心停止している人を見つけたら、
通報後「AED」の存在を思い出す

外国人と話すことになったら、英語ではなく
まず「やさしい日本語」の存在を思い出す

https://www.aed-life.com/products/option/wallcase/

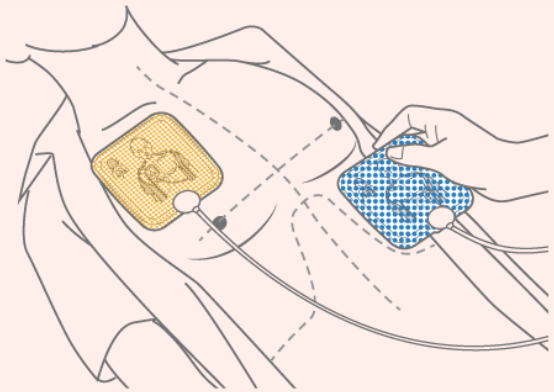
Copyright© Akira Yoshikai

AEDが万人の「常識」になったのは、「シンプル」で「だれでも実践可能」だから

AEDは簡単3ステップ
音声ガイドに従って操作します

1 フタを開けると 自動電源ON

2 電極パッドを胸に貼る



3 ボタンを押して 電気ショック

AED

開けて・貼って・ボタンを押すの
３ステップで、だれでもできる
心停止者への救急救命

https://www.aed-life.com/information/use/

Copyright© Akira Yoshikai

やさしい日本語を万人の「常識」にするには、なにより「シンプルさ」が必要

はっきり

さいごまで

みじかく

やさしい日本語

はっきり・さいごまで・みじかく言う
「ハサミの法則」で、だれでもできる
言葉に壁のある人たちへの緊急対応

Copyright© Akira Yoshikai

やさ日パラダイムシフト：だれもが、必要なときに対応すること

・地域や職場の全員が「必要なとき」に使えるよう、定期的に訓練する

・必要なとき以外に強制するものではない（母語話者同士に強制しない）
　・外国人と日常的に親しくなるためにも、やさしい日本語はあまり向かない

・やさしい日本語が「必要なとき」
＝「外国人から頼られたり、質問されたりするとき」
　・居合わせた人が協力すべきことなのは、AEDと同じ
　・外国人と付き合いたくないと思う人も、これだけはやってほしい

Copyright©　Akira Yoshikai

やさ日パラダイムシフト：「言い換え」から「説明」の技術へ

・これまで：「雇用保険」の言い換え（書き換え）

→「会社をやめたあと仕事が見つからない人や育児休業、
介護休業をしている人を助ける制度。」
（入管庁「生活・仕事ガイドブック(やさしい日本語版)」での言い換え）

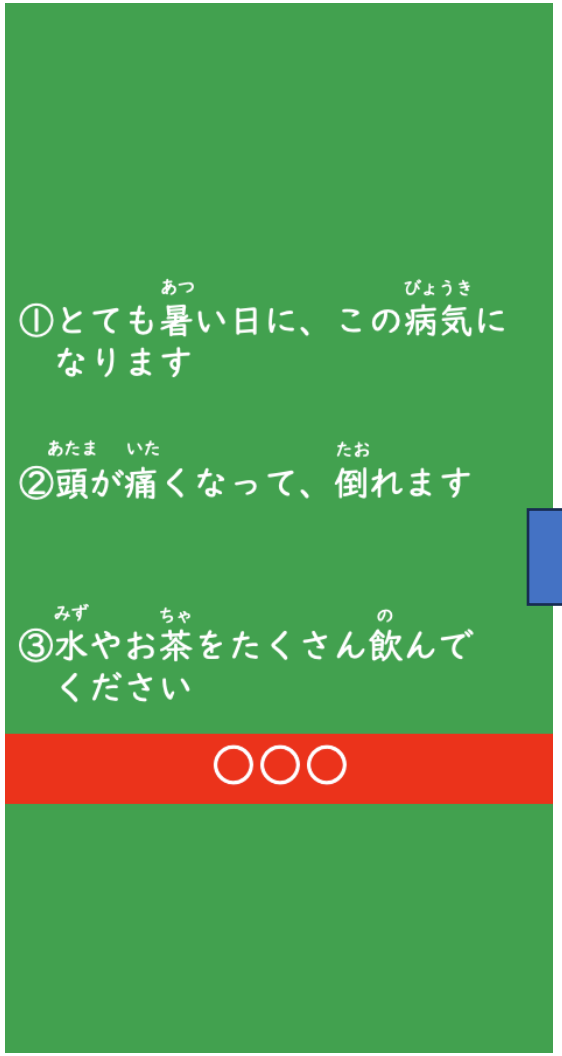
・これから：「雇用保険は、何ですか？」という質問への説明

→・仕事をやめた人や、働けなくなった人がもらうお金です
・働いているときに、毎月少しずつお金を払います
・もらうときは、ハローワークというところに行きます

「１文の短さ」と「本質を見極める」ことにフォーカス

Copyright© Akira Yoshikai

クイズコンテンツ「やさ日３文クッキング」



Copyright© Akira Yoshikai

楽しいクイズ形式で、「説明」のトレーニング

① です（ます）。
② です（ます）。
③ です（ます）。

クイズ

（ ）

説明

は何ですか？

Copyright© Akira Yoshikai

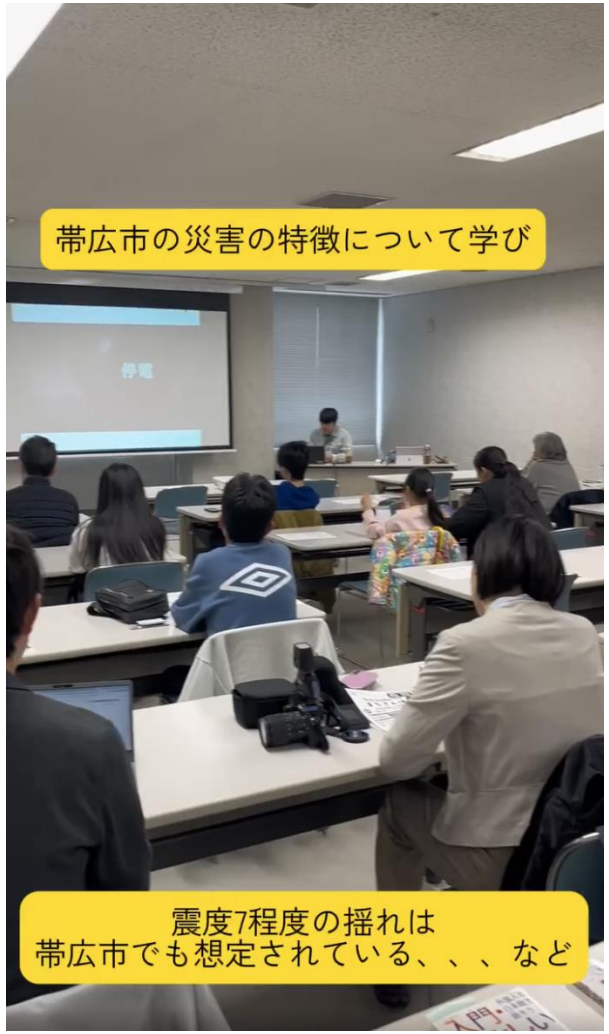
やさしい日本語研修と「防災・減災」研修の連携

・「防災・減災」に関することは、日本人・外国人共通に「必要な」情報

　・やさしい日本語の研修のテーマ自体に「防災・減災」は有効

Copyright© Akira Yoshikai

（一社）にほんごさぽーと北海道「多文化＆防災まちさんぽ」



帯広を拠点とするにほんごさぽーと北海道がJICA基金を活用して、数回にわたって外国人住民とともに地域防災をテーマとしたまちさんぽ企画を実施。

2023年札幌市、2024年北海道大樹町、2025年帯広市

Copyright© Akira Yoshikai

『入門・やさしい日本語』認定講師の中には多数の防災士が在籍

「やさ日x防災」チームを作り、ワークショップでの活用方法を普段から話し合う

→１泊２日のミニ合宿を企画

Copyright© Akira Yoshikai